

植物と人々の博物館メールマガジン

第 109 号 2024 年 3 月 2 日発行



早春の突風で、時空が吹き飛ばされそうです。スナップエンドウは甘く、ディルも薫り高いです。たくさん花が咲くようになり、うれしいですが、アレルギー花粉が舞うのは人災で困ったものです。

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024 年も社会的共通文化財である標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご一緒していただければありがたいです。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日： 今年 3 月中旬から原則月曜日、10:30~14:10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 植物と人々の博物館運営担当者の協議

収蔵品の措置、活動内容、運営、出版物、ホーム・ページ、その他。さらに検討を進めて、自然文化誌研究会総会（2024 年 2 月 10 日）の合意を得ました。

2) メーリング・リストを再編しています。新たに送付ご希望の方、今後ご希望されない方、お知らせください。それぞれにご対応します。

○予定など

1) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/goods.html>

2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は現在、第 12 章中央アジア諸国からアフロアジア地域までを記述しています。この地域には 1993 年、1997 年に調査に行きました。広大な地域なのでなかなか進捗しません。参考にするために、多くの探検記を読み、アフリカ料理、インド料理の食べ歩きをしています。主課題の第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめていきますが、同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加

しています。

3) 公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<http://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

藤村コノエ著 (2023) 『持続可能な世界に向けた新たな環境教育』(玄武書房)、うかたま、現代農業、Ecoplus 会報、お米の勉強会会報を寄贈 いただきました。感謝申し上げます。西川至先生の留保分約 100 冊を遺言により、西川文庫に追加します。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館への寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ (佐野川) で有機無農薬により栽培したキビなどを精白/製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。2023 年度末で決算報告をしました。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

2 月 10 日 (土) 11:00~12:00 通常総会 ZOOM

4 月は茶摘み (東京学芸大学彩色園)、5 月は村祭りキャンプ (小菅村)、7~8 月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、など予定しています。

3. 雑穀街道普及会： 閉会解散

この 10 年間の経緯の詳細については、「雑穀街道普及会の顛末書~大きな感謝と少ない謝罪 (仮題)」を民族植物学ノオト 17 号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホーム・ページにアーカイブを公開しておきます。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

[雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退し](#)

たのか - ニュース レポート

FAO 国際雑穀年ウェブセミナー第2回 日本の雑穀小史 木俣報告

[The historical sketch of millets in Japan](#)

[雑穀街道普及会説明会 \(2023年9月最終集会\)](#) 映像 ; 梶間陽一氏制作

<https://www.youtube.com/watch?v=TF8hdpFPeOg>

「縄文からの伝言」 <https://youtu.be/6WqeAAiyhqw>

資料 : <http://www.milletimplic.net/university/farming/grain3fnal.pdf>

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 報告

1) 自給農耕ゼミ (佐野川)

- ① 収穫した穀物は木俣が預かりました。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。
- ② 今年、雑穀栽培を始めたい方には種子を差し上げます。ご連絡ください。
連絡先 : kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣
- ③ 今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。

kwangjuul1980@yahoo.co.jp ご連絡、ご参加をお待ちしています。

○ 予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナー (第41回) を再開する案が出ています。

2) 第39回泉龍寺仏教文庫講座 (狛江)

雑穀、生き物の文明への移行～人新世の希望はここにある

日時 : 2024年3月9日 (土) 14:00~16:00

場所 : 泉龍寺仏教文庫 2階 講義室。狛江駅のすぐ近く。

問い合わせ : 03-3480-3251 募集人員 : 30名 (要予約)

資料代：200 円 後援：狛江市教育委員会

講師：木俣美樹男（民族植物学、環境学習原論専攻）

農学博士、東京学芸大学名誉教授（元・連合大学院教育構造論講座、
環境教育研究センター教授）

あらすじ： 穀物の栽培化過程から人間との共進化を学ぶ。穀物の栽培化過程と伝
播。自然、生業文化、産業都市文明から第四紀人新世へ。未来への希望は生き物の文
明への移行にある。

講義資料：www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/livecultras2.pdf

狛江市は小菅村と連携協定を結んでいます。学大も小菅村と社旗連携協定を結んでい
ます。

~~~~~

## 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村  
礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley  
（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨  
小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

~~~~~

編集子独り言：

心と阿修羅に関心を集中しています。アシュラの眷属はたくさんいます。70年代の
ジョージ秋山のアシュラは粗く、醜い子供ですが、はぐれ雲になるとおじさんの人物
が次第に優しく描かれるようになったようです。80年代の宮崎駿のシュナ少年からナ
ウシカ少女への変容、横瀬龍のSFは広大な構想で、90年代の萩尾望都の阿修羅はと
ても美しい少女です。21世紀になって、吾峠呼世晴の禰豆子やAdoの阿修羅ちゃんも
可愛いです。酷い時代を描きながら、内在する美から外見の美に向かったのだしょ
う。風の時代に心を磨きたいと思います。

新宿高島屋にあるインド料理店でマサラドーサを作ってもらいました。キングフィ
ッシャー（カワセミ）ビールも飲み、久しぶりの南インド料理で美味しかったです。
ragi mudde の蘊蓄を述べても通じず、インド料理店の彼らはネパール人であったので
kodo dhido で納得しあいました。日本でもシコクビエは栽培されていて、おねりにす
ると言いましたが、これは聞きながされました。

写真



深大寺門前の鬼太郎茶屋、なぜか子供や若い女性に人気で、カフェには行列です。いつもジャコロッケを買っています。沈丁花も咲きました。



イタリアのキビで作ったポレンタとインドのマサラで作ったチキンカレー（編集子謹製）。キングフィッシャー新ラベル。



ミモザ、ミツマタ